

フォーラム 5

私達の教区・教会での働き

力弱い私達ではありますが、後から来る者達のために、私達が教区に戻った時に出来ることを考えてみましょう。どんな小さなことでも良いのです。小さなことの積み重ねによって、大きなことも出来るのです。

私たちは
原発のない世界を求めます。
そのために祈り、行動します。



「原発のない世界を求める国際協議会」(2019.5. 28~31 仙台・茂庭荘)

ミランダ・シュラーズ教授

(ミュンヘン工科大学)



ミュンヘン工科大学教授
脱原発倫理委員会の17人のメンバーの一人。
「原発のない世界を求める国際協議会」のメイン講師としてお招きした。

2019年5月

倫理委員会のレポートの内容

- 原子力発電所の安全性は高くても、事故は完全に防止できない
- 事故になった場合はほかのどんなエネルギー源よりも危険である
- 次の世代に廃棄物処理などを残すのは倫理的問題がある
- 原子力より安全なエネルギー源がある
- 地球温暖化問題もあるので化石燃料を使うことは解決策ではない
- 再生可能エネルギー普及とエネルギー効率性政策で原子力を段階的にゼロにしていくことは将来の経済のためにも大きなチャンスになる

川上直哉牧師の基調講演から

- 「平和のための核」 (Atoms for Peace)によって原発が競って建設された。しかし、原発は核兵器のためのプルトニウムを作るためのものであった。原発と原爆は一枚のコインの表と裏である。
- 世界戦争の参加の中で苦しむ人々が確かな信仰の告白をする。
- 神は人の無能が露呈するところで「赦す者」としてご自身を顕現なさる。
- 人間の無能を許す神への信仰の内に人はみ摂理を見てきた。
- 「原子力の問題はあまりにも巨大で深刻です。それに対して教会はあまりにも小さいのです。
- 被曝地フクシマにある教会は、神の赦しのみ業を見るだろう。復活したイエスが、ご自身を教会の欠けの中にあらわされるだろう。私達は、ここに主の祈りを祈りなおすことができる。
- 私達は、原子力の奴隷となっている自分自身の姿を見出している。

フォーラム5 : 私たちの教区・教会での働き

- ① 「おひさまプロジェクト」の紹介
- ② 教区・教会に戻って私たちが出来ること
- ③ 参加者ネットワークの構築
- ④ 教会は原発とどの様に向き合っていくのか